

もっと、あなたに響くこと。



News Release

2021年1月4日
株式会社ジュピターテレコム

2021年 年頭所感

(本資料は、ジュピターテレコム代表取締役社長：石川 雄三の社員向け年頭挨拶の抜粋です。)

あけましておめでとうございます。2021年の年頭所感を申し上げます。

<2020年の振り返り>

2020年は、全世界が新型コロナウイルスの脅威にさらされた年でした。

また、政治では9月に菅政権が発足し、感染症対策と経済対策の両立という大変難しい課題を解決するために国中で様々な取り組みが行われています。

我々J:COM グループではこの100年に一度といわれる変化の中で、全員が新しい環境に適応すべく努力し、厳しい状況を乗り切ることが出来ました。

<2021年について>

今年は二重の変化が起こる年だと思います。

1つ目は、コロナ禍でのリモート対応や携帯電話サービスの価格競争などに代表される、去年顕在化した変化の余波が継続するということ。

2つ目は、去年は顕れなかった潜在的な変化のマグマが大きく顕在化する、ということです。

コロナ禍は人々にとって「本当に大事なものは何か」を気づくきっかけになったのではないのでしょうか。これからは従来にも増して、本当に価値のあるサービスや商品だけが受け入れられる社会になると考えています。

ニューノーマルという今までに経験したことのない日常の中で、変化に適応し本質的な価値提供を実現した会社は成長を加速し、現状に踏みとどまってしまった会社は衰退するという二極化が進むことも考えられます。J:COMも二極化の例外ではありませんが、当社グループにはニューノーマルの中でも評価される優れた提供価値が沢山あります。

それを磨き上げて、お客さまにより分かり易くシンプルに提供することにより、その価値はさらに上がり、我々の成長を支えてくれるでしょう。

そのために我々が実行すべき課題は2つあります。

1つ目はCXの向上です。

CX向上には、全員がお客さまの視点で自らの仕事を考え、全社最適、かつワンチームでの取り組みが必要であり、その実行に向けて更なる努力をしていきましょう。

2つ目は提供価値の見直しです。

我々J:COMは放送、通信、エネルギー、メディア、TV通販など、様々なサービスを提供していますが、本来持っている実力を100%発揮できてはいないと思います。

もう一度それぞれのサービス価値を見直して、それをもっと高めるのです。

同時に、「J:COM LINK」や「J:COM TV フレックス」等で実現したように、サービスを横断的に組み合わせさせてサービス間のシナジー創出を加速させていきましょう。

2つの課題を解決するためには、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進が不可欠です。

J:COM は地域力や営業力というフィジカルな強みを持っています。

フィジカルな強みの上にデジタルの力を加えることにより、本当に強い会社になれると信じています。既に多くの取り組みを進めてもらっていますが、今年は全員がデジタルの力を活用してより創造的で効率的な仕事をしていきましょう。

当社の企業理念「もっと心に響かせよう、もっと暮らしを支えよう、明日を未来を拓いていこう」は、「お客さまにもっと満足してもらおう」「新しいことにチャレンジし、社会的にも大儀のある仕事をし、ていこう」という崇高な理念を表しています。

この理念を常に念頭に置き、全社員がこれを実行してください。

変化の中ではリスクと機会が背中合わせで存在します。

前を向いて、新しい機会に挑戦し、事業と自らの成長を実現していきましょう。

2021年1月
株式会社ジュピターテレコム
代表取締役社長 石川 雄三

ジュピターテレコムについて <www.jcom.co.jp/>

株式会社ジュピターテレコム(本社:東京都千代田区)は、1995年に設立された国内最大手のケーブルテレビ事業・番組供給事業統括運営会社です。ケーブルテレビ事業は、札幌、仙台、関東、関西、九州・山口エリアの11社70局を通じて約555万世帯のお客さまにケーブルテレビ、高速インターネット接続、電話、モバイル、電力、ホームIoT等のサービスを提供しています。ホームバス世帯(敷設工事が済み、いつでも加入いただける世帯)は約2,178万世帯です。番組供給事業においては、16の専門チャンネルに出資及び運営を行い、ケーブルテレビ、衛星放送、IPマルチキャスト放送等への番組供給を中心としたコンテンツ事業を統括しています。 ※世帯数は2020年9月末現在の数字です。